

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成18年4月13日(2006.4.13)

【公開番号】特開2000-244441(P2000-244441A)
 【公開日】平成12年9月8日(2000.9.8)
 【出願番号】特願平11-74621
 【国際特許分類】
H 0 4 J 11/00 (2006.01)
 【F I】
 H 0 4 J 11/00 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成18年2月23日(2006.2.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】発明の名称
 【補正方法】変更

【補正の内容】
 【発明の名称】OFDM通信におけるガード区間設定方法

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 第1ユーザデータに前記第1ユーザデータの一部をガード区間として付加する一方、前記第1ユーザデータよりも良好な通信品質が要求される第2ユーザデータに前記第2ユーザデータの一部をガード区間として付加するOFDM通信において使用されるガード区間設定方法であって、

前記第2ユーザデータに付加するガード区間の長さを、前記第1ユーザデータに付加するガード区間の長さよりも長く設定する、

ガード区間設定方法。

【請求項2】 前記第1ユーザデータの長さおよび前記第2ユーザデータの長さを常に一定とする、

請求項1記載のガード区間設定方法。

【請求項3】 前記第1ユーザデータに付加するガード区間の長さを回線品質に応じて変化させる、

請求項1記載のガード区間設定方法。

【請求項4】 前記第2ユーザデータに付加するガード区間の長さを常に一定とする、

請求項1記載のガード区間設定方法。

【請求項5】 前記第2ユーザデータに付加するガード区間の長さを、前記第1ユーザデータに付加するガード区間のよりも常に一定長だけ長く設定する、

請求項1記載のガード区間設定方法。

【請求項6】 前記第2ユーザデータに付加するガード区間の長さを、前記第1ユーザデータに付加するガード区間の長さに回線品質に応じて変化させた長さを加えた長さに設定する、

請求項1記載のガード区間設定方法。

【請求項7】 前記第2ユーザデータは前記第1ユーザデータの送信後に送信される

ユーザデータである、

請求項 1 記載のガード区間設定方法。

【請求項 8】 第 1 ユーザデータに前記第 1 ユーザデータの一部をガード区間として付加する一方、前記第 1 ユーザデータよりも良好な通信品質が要求される第 2 ユーザデータに前記第 2 ユーザデータの一部をガード区間として付加する付加手段と、

前記第 2 ユーザデータに付加するガード区間の長さを、前記第 1 ユーザデータに付加するガード区間の長さよりも長く設定する設定手段と、

を具備する OFDM 通信装置。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、直交周波数分割多重方式 (Orthogonal Frequency Division Multiplexing; 以下、OFDM という) におけるガード区間設定方法 に関する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、ガード区間付加による遅延波を除去する機能を維持しつつ伝送効率を向上させる ガード区間設定方法 を提供することを目的とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

【課題を解決するための手段】

本発明の骨子は、有効シンボルの先頭に付加されたガード区間長を適宜変化させて、その時点・その環境下において適正長のガード区間を保つことによって無線信号の伝送効率を向上させることである。